

# 第67次 教育研究福井県集会

## テーマ「響心」

～響かせよう心に、響き合おう心で～

### 総括報告

第67次教育研究福井県集会が11月11日(土)、武生第二中学校と越前和紙の里パピルス館(第3分科会)を会場として、開催されました。組合員、保護者、退職組合員等、約600名が県内各地より参加しました。

全体会では、県教組竹野亨執行委員長より、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取り組みや本集会の目的・意義について挨拶させていただいた後、越前市教育委員会教育長の中島和則様より激励の言葉をいただきました。その後の講演会では「つだつよし」さんが、「キラキラ輝く夢を育てるステキな応援方法」をテーマにして、ご自身の体験談を多数交えたお話をされました。笑いあり感動ありの90分間の中で、参加者は楽しみながら、つだ流子どもたちへの応援方法を学びました。



午後は、専門職豊かな講師の方々による、ワークショップを中心とした参加型の12の分科会が開催され、教職員としての資質向上を図りました。



編集・発行所  
福井県教職員組合  
福井市大手2丁目22-28  
TEL 23-1887  
郵便番号 910-8544  
定価70円(郵送料共)  
毎購送料(含組合費)  
大和印刷所

第67次  
教研特集  
(全組合員配布)



## 委員長挨拶

今年の夏も甲子園の球児たちによってたくさん感動を得ました。福井県代表であった坂井高等学校の試合は、対戦相手に先行されるも粘りの野球を見せ、二度追いつき逆転する展開を見せました。最後には相手の攻撃力に押し込まれ、惜敗となりましたが、はつらつとしたプレーやひたむきなプレーに、心から賛辞を送りたいと思えました。ところで、このチームは苦しみながら成長していったことを新聞記事から知りました。昨年の夏の県大会以降、ベスト4以上に入り安定した力を発揮していましたが、優勝することはできませんでしたが、「ものすごく指示を待つチーム。積極性がない」と監督は感じていました。練習では言われたことを淡々とこなし、試合でも「どうしたらいいですか」「次は何をすれ

ばいいですか」という選手たちでした。そこで監督は5月後半に、主体性を持つて考える大切さ、夏の甲子園出場に懸ける思いなどを選手に話をしたそうです。そして練習試合であえて指示を出さないようにしたところ、選手たちは「今はエンドランですよね」などと意見を言うようになり、「いや俺なら盗塁だな」こんなやりとりが始まり、選手自らが動く雰囲気が出てきたそうです。大会前の6月下旬には「選手が先回りして考える野球になってきた。こいつら面白いかも」と監督は思えるようになりピンチやチャンスの時の積極性も身につけてきたとのこと。次期学習指導要領が3月に告示され、その準備が始まっています。「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけ取り組みが求められます。「主体的に」とは、坂井高校の取り組みにあるように、自らその場の最善手を考え、実行に移すことではないでしょうか。また、自ら判断ができる場合があります。他者の考えを聞くことが大切ですが、その対話が「深い判断」となっていくのではないのでしょうか。「考える野球になってきた。面白いかも」と監督が述べていますが、授業者である私たちには「子ども自